



北海道新幹線 新函館北斗駅

～開かれたエントランスの駅～

本屋(南口)内観:

本屋(南口)外観:

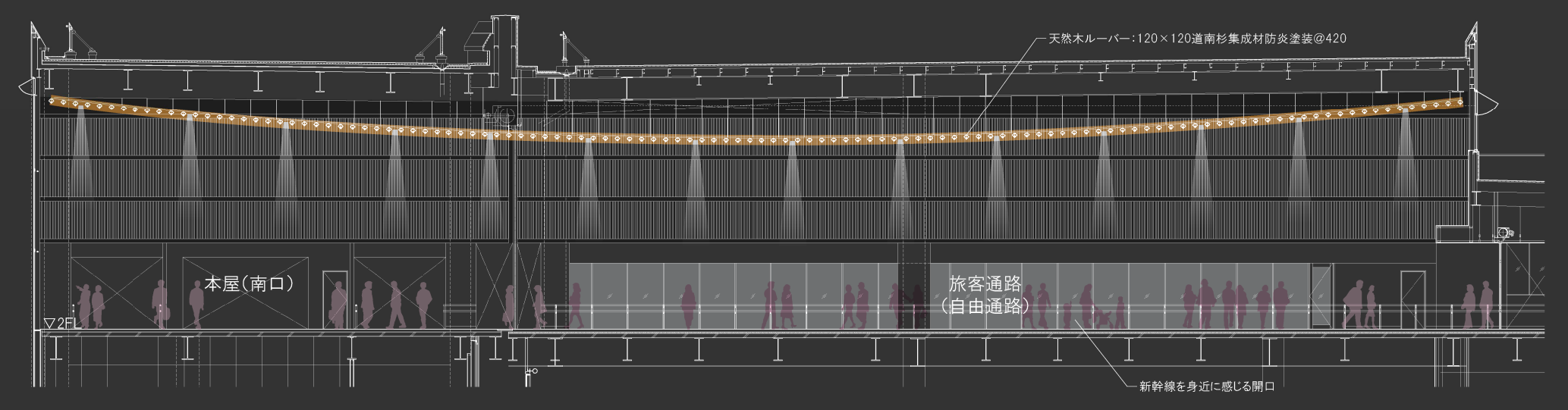
新函館北斗駅は札幌延伸時まで始発駅となる北海道新幹線の主要駅である。デザインコンセプト「自然と共に呼吸するモダンで温かみのある駅」を元に、お客様を温かく迎え入れるゲート性を意識したデザインとし、市内のトラピスト修道院のポプラ並木をイメージした鉄骨柱や、開拓時代に市内に製造所があった函館煉瓦の再現などにより地域の特色を取り入れた。

最大の特徴は、地場産の道南杉集成材を天井面のルーバーとして約2,100㎡に渡り使用し、柔らかく包み込まれる空間を意図した点である。

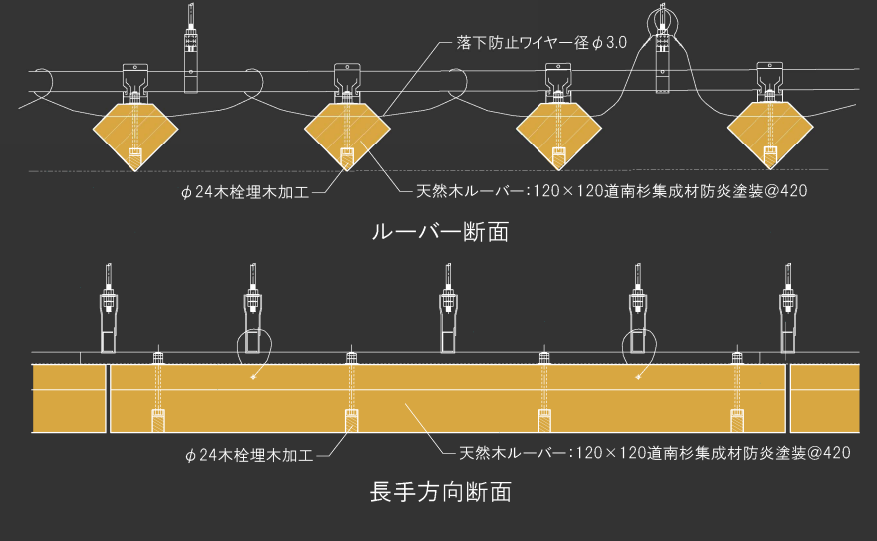
2階床面から7m程の高さに設置した線路と平行方向のルーバーは太陽光や照明の反射を考慮して直交方向には緩やかなRをつけており、光が常に材表面を照らすことで、木の自然な風合いを活かした。適度な木の存在感を残すためサイズは120角とし、取付けは防振ダンパーや落下防止ワイヤー等の設置により耐震性を高めた。

外部からも大開口を介して木を感じられ、駅とまちを繋ぐ役割と次世代へ駅を引継ぐ力強さを木の温かい質感が担うと考えた。

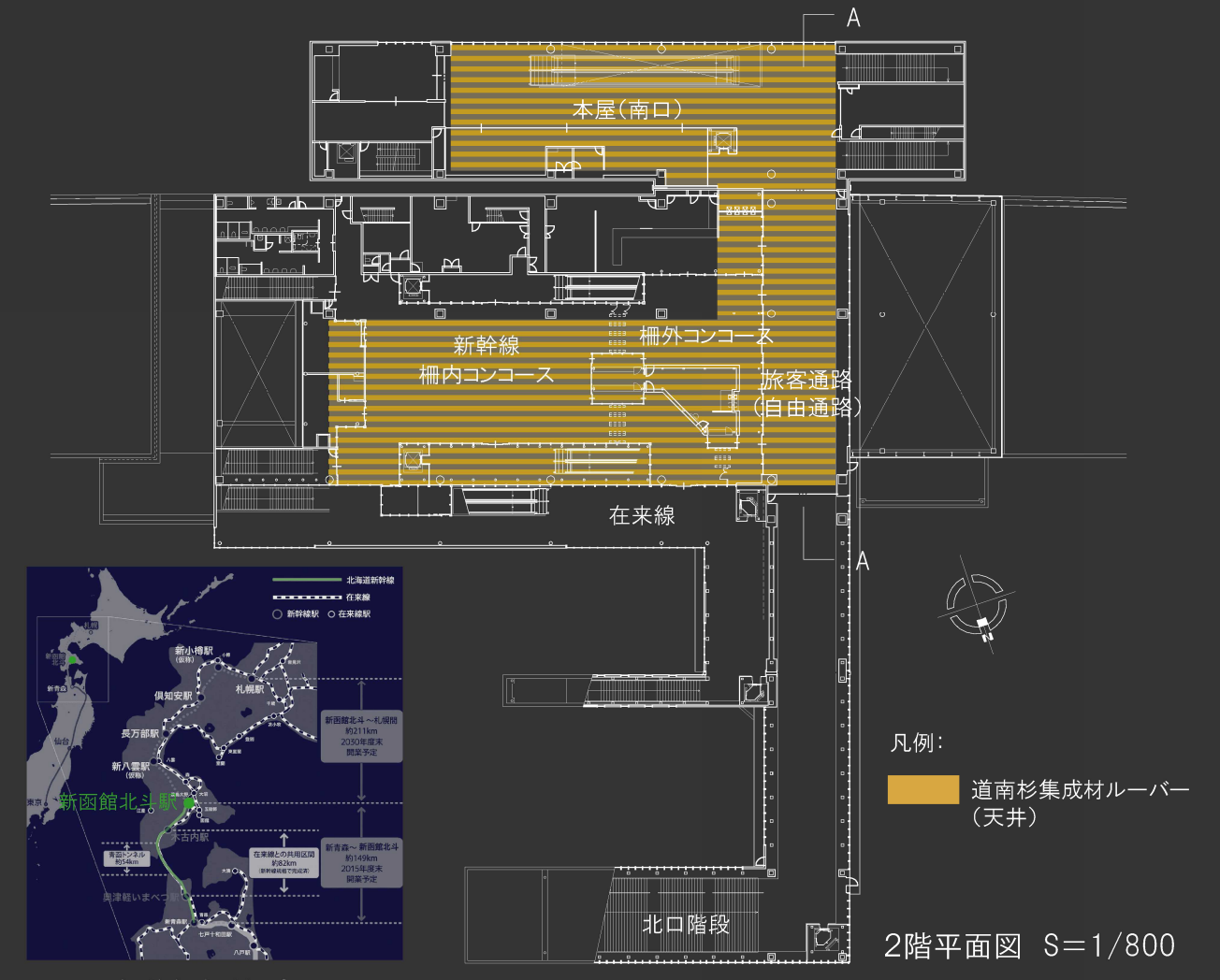
地元で切り出された道南杉は、主に地元で集成材とすることで、特徴である赤みや節を活かし、割れや変形への対応をした。公共性が高い駅のため、材表面に不燃塗料を塗り重ねて燃えにくく配慮した。天井仕上材の代わりに、「造作材」として連ねて、限られた予算の中でも表情豊かに仕上げた。



断面図(A-A) S=1/200



ルーバー詳細図 S=1/5

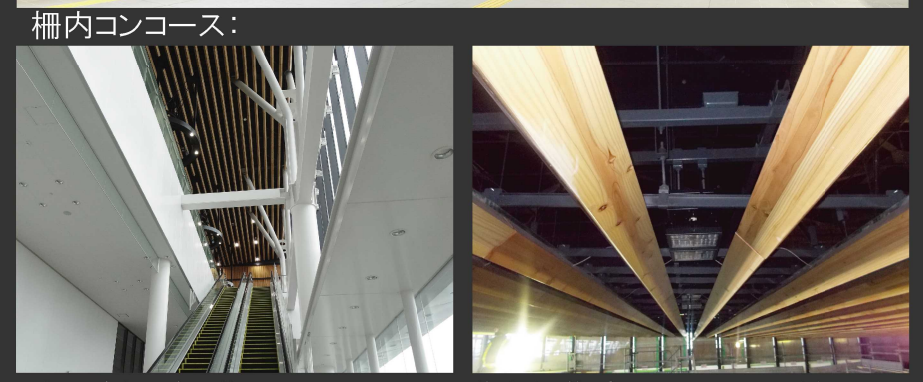


2階平面図 S=1/800

北海道新幹線 概要図



旅客通路(自由通路)より柵外コンコースを見る:



本屋(南口)1階からの見上げ: 道南杉集成材ルーバー詳細:



旅客通路(自由通路):